

岐阜の成長企業トップインタビュー
城山産業 竹中幸三社長に聞く



城山産業
竹中幸三社長

城山産業は電磁鉄芯（コア）を製造する専門メーカーで、モーター用と並び、トランス・リアクトル用で幅広い分野に実績を持つ。金型設計・製作から打ち抜き、自動積層まで一貫して手がけ、試作品から量産まで短納期で対応する。コア専門では国内トップクラスの生産量を誇り、2016年5月期売上高は62億円。ことし6月に創業70周年の節目を迎えた。競合メーカーと差別化を図るべく、近年、金型工場と本社工場の刷新を相次ぎ実施するなど、国内投資を積極化する。竹中幸三社長に展望などを聞いた。

（岐阜支局長・伊藤吉登）

工場刷新でニーズの多様化に 대응

「モーターとトランス関連で約250社と注を強化している」工場棟の刷新が完工し組み立て事業を分社化しました。狙いは。

「マイクローメートル オーダーの高精度金型 工場が老朽化して 取引先のニーズに注状況はいかがですか。の内製化で差別化を図いたため、労働環境の対応、コア製品に

「現在も工場の稼働率自体は悪くはない」 「当社の金型事業だ働きやすい職場とする 工や巻き線作業、組み

「顧客ごとに受注量が下見ると金型事業でつなげたい。設備面ですれも小ロット向け

「バラツキがあり、まだ模様が。昨年暮れが下落しており、収益は加圧能力400トンで、人手で行う仕事

「までは為替が円安で移しており、輸出製品金型の設計・製作を手導入した。さらに既存制を再構築し、価格競

「向きのコアの需要も伸びがけることは自社の競プレス機を更新する形争力を高める。設備も

「長していたが、年明け争力維持に欠かせない。コア向け金型の大高速プレス機も入れなる自動車関連の小物

「以降の円高進行でそうい。型化・高精度化ニーズだ。400トンタイプはプレス部品などの需要

「した需要は一段落した。家電メーカーは海外生ににえるべく、14年に業界の専門メーカーでを開拓したい。勤務体

「産シフトを加速してお新たな専門工場を稼働導入している企業は少系も整備し、定年後の

「り、こうした関連の中するなど対策を打ってない。現状でここまで再雇用社員を受け皿と

「小モーターは減少傾向きた。金型からプレス大型プレス機が必要しても活用する。今後

「にある。そこで需要の成形まで一貫して手がな案件はわずかだが、は人手不足の課題が顕

「伸びが期待できる自動けることで、納期面で先行導入することで多著になる。安心して働

「車や工作機械用のほも顧客の要望に柔軟に様化する発注先のニける労働環境を用意

「か、発電用などの特殊対応できる」 「6月に部品加工やしている」

「なモーター用コアの受 ーとして5月に本社 ー6月に部品加工やしている」

「

「

「

「